

建学の精神	自然豊かな環境の中で、誠実にして、豊かな情操をもち、しかも実力ある人を育てる
-------	--

学校教育目標	本年度の重点目標
1. 不登校生徒や進路変更した生徒を支援し、生徒の登校状況や発達段階に対応したきめ細やかな教育を受けることにより、自発的に将来を見つめ、卒業後の進路を発見できる学校 2. 南木曾町が誇る様々な伝統技能体験、妻籠宿の町並み、様々な文化財から信州学を学び、理解し、それらを大切にすることを育む教育ができる学校 3. 南木曾町ならではの豊かな自然環境に触れ合い、ブッシュクラフト(アウトドア・防災技術)を学ぶことで自然を体感し、共生できる力を育む教育ができる学校 4. キャリア教育につながるコンピュータ・調理・ファッションに関わる技術習得や資格取得を、助手として兼任する専門学校教員が実習指導することで技術教育を学ぶことができる学校 5. 等身大投影(AR技術)による双方向遠隔授業を取り入れ、本校と各サテライト校を結ぶことで、面接指導と同等な学習環境を常に提供できる学校	1. 新設校として開校年度に当たり、学校組織と学校運営の確立と充実、および施設設備の拡充整備に重点を置く。 2. 新設の通信制高校として、長野・岐阜・愛知の各県において広報活動に努め、認知度を高める取り組みに力を注ぐとともに、さまざまな面での地域連携を進める。 3. 在学生と新入生に適切な指導に努め、生徒一人一人を大切にすることを面倒見の良い教育の実践を推進する。 4. 次年度以降の生徒増と技能連携の本格実施に備え、必要な施策と準備を行う。

評価基準 : A…ほぼ達成 B…概ね達成 C…やや不十分 D…不十分

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	次年度への改善策
学習指導	① 基礎基本学習の定着及びマナーの教授	・各教科指導において、基礎・基本を定着することができたか。 ・生徒の向学心を育成し向上することができたか。	基礎基本を充実した分かりやすい授業を心がけた。基礎基本の充実に向けた課題、授業の準備ができた。	B	追究心を掻き立てる、楽しい授業構成を工夫する。
	② 学習指導方針である「面倒見の良さ」の実現	・生徒の実態に基づいて、学習資料や指導方法の改善を図り、「わかる授業」「できる授業」になるよう工夫したか。 ・生徒自らが意欲的に学習に取り組むような授業を展開することができたか。	生徒の学力実態に即した資料の準備と授業展開と授業内容の精選と工夫	B	生徒の実態を把握し、実態に則した学習指導計画を工夫する。生徒相互の交流の場を設定する。生徒の学力を把握し、その実態に合わせた指導計画の作成。
	③ 生徒の実情に合わせた学習支援とAR授業および職員研修	・法定回数以上の面接授業を実施し、AR授業や多様なメディアを活用したわかりやすく充実した授業ができたか。 ・適切なレポート問題の作成および丁寧な添削指導ができたか。 ・学習理解度を十分上げるため、スクーリング以外での補習授業や学習支援ができたか。 ・必要な職員研修が実施できたか。	積極的にAR授業、メディアを活用した授業展開に努めた。各教科でレポート課題の内容の充実が図れた。教員研修の機会がとれなかった。	B	AR授業、メディアの活用がさらに図れるよう研修会の実施。各教育機器の活用操作研修会の実施。年間行事の中に研修会を組み入れる。
	④ 単位認定までの学習指導	・科目担当者は学習評価、補習授業や学習支援の適切な指導ができたか。 ・出欠管理やレポート提出の確実な管理が適切にできたか。 ・各校の担当は学習環境を整え、生徒への助言及び保護者への適切な連絡ができたか。	出欠席、スクーリング出席、レポート提出等の管理を一覧表で管理できた。	A	学習実施計画の見直しと改善。
生徒指導	① 生徒適性に合わせ、社会人基礎力とマナーを高める指導	・社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を涵養できたか。 ・生徒の社会進出を見据えた社会常識の教授ができたか。	進学・就職指導を個別に教科指導、面接指導、作文指導等計画的に実施した。	C	生徒個々に則した指導、社会進出を念頭に社会人としての資質を備えられる指導の充実。チームで働く力の育成に関する機会の設定。コミュニケーションが苦手な生徒を導く指導の確立。生徒のチーム育成の指導方法を図る。
	② 登校が難しい生徒への支援	・通信機器等を使用した適切な遠隔学習支援を行うことができたか。 ・必要に応じて最終学期(V期)の特別集中スクーリング期間を設けて単位修得指導ができたか。	個々に応じた補習指導の充実。家庭への連絡を密にして連携を図った。	A	生徒へのこまめな声掛け。保護者との連携を密にした生徒対応の実現。既存機器運用の管理運用の整備を図る。
	③ 家庭保護者との連携と支援	・生徒の状況を的確に把握し、保護者との適切な連絡が取れているか。 ・計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるように支援しているか。	生徒の実態を把握しタイムリーな連絡連携ができた。	A	教職員の充実、人員補充を図り、細やかな指導を目指す。
進路・保健指導	① 進路指導とキャリア教育の推進	・生徒個々の進路目標実現に向けて適切な支援と助言ができたか。 ・ハローワークなどの外部組織と連携した進路指導の推進ができたか。 ・卒業後を見据えたキャリア教育を推進し、生徒の進路選択の助けとなったか。	キャリア教育の実施。保護者、本人との面談、企業、事業所、ハローワークとの連携を図れた。	B	キャリア教育に関する組織的な指導体制を年間計画に織り込む。本人の意向を早めに把握し多様な情報提供を行った進路指導を行う。
	② 技能連携教育の準備と推進	・来年度から本格実施となる技能連携教育の準備を関係機関とすすめ、円滑な実施を図ることができたか。 ・技能連携についての生徒と保護者への理解と協力を進めることができたか。	高等課程担当との連携を密にし、円滑な移行が進められた。	A	高等課程から通信への移行を簡素化しスムーズに行える連携体制の構築。
	③ 健康の保持増進及び新型コロナウイルスへの対応	・養護教諭やスクールカウンセラーと連携し、生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を養うことができたか。 ・新型コロナウイルスに対して、適切で効果的な感染症対策ができたか。	消毒、検温、ソーシャルディスタンス、感染予防対策等の広報の実施。保健室の設営。	B	生徒の心の安定を図るためのスクールカウンセラーを配置し、心のケアを図る。
学校運営	① 学校組織と学校運営の確立と充実	・新設校として必要な職員組織の整備と各種規定規則の設定が適切に行われ、学校運営が順調に進められたか。 ・生徒募集推進のため、学校説明会や広報活動が効果的に実施できたか。 ・入学者、転編入学者に対し、本人及び保護者、前籍校への適切な対応ができたか。	個々の校務分掌の把握。指示系統の整備を図る。	B	特定職員に負担がかからないような校務分掌を見直した分担を構築する。
	② 新設校としての施設設備の拡充整備	・施設設備の充実拡充・補修点検をおこない安全管理に努めるとともに、校舎の環境整備を進める。	地震対策として備品等の転倒防止策が図れた。避難訓練の実施ができなかった。	B	安全教育に関する年間指導計画の構築。
	③ 広報活動と情報発信および地域との連携	・各校において様々なメディアを通じた十分かつ効果的な広報活動を行い、認知度を高めることができたか。 ・中学校訪問を適切に実施し、成果を上げることができたか。 ・本校や各サテライト校で地域連携を積極的に進め、地域に開かれた学校を目指す。	定期的にブログの更新が図れ学校での教育活動や生徒の様子を適宜伝えることができた。	B	渉外活動に関する年間活動計画の作成。高等課程の渉外担当者との緊密な連携を図る。読んでもらえるようなPR資料等の作成活動を行う。